

## 第 4 回

### 健康と文化の森地区産学公連携協議会

日時：2025 年（令和 7 年）8 月 28 日（木）

午後 2 時 00 分～

場所：藤沢市役所 本庁舎 6 階 6-1 会議室

#### 次 第

#### 1. 開会

#### 2. 議事

(1) 前回協議会の振り返り/資料 2、資料 3

(2) 産学公連携実行プランの全体イメージ/資料 4

(3) 展開する施策について/資料 3

(4) プランの推進体制について/資料 3

#### 3. 閉会

## 産学公連携実行プランの構成と進め方について

産学公連携実行プラン 構成(案)	各会の進め方(案)					
	R6			R7		
	1回 8月29日	2回 12月4日	3回 3月21日	4回 今回	5回 11月下旬	6回 3月上旬
1. プランの位置づけ	健康と文化の森地区の概要 産学公連携の具体化に向けた取組	産学公連携実行プランの骨子について	△	●		
2. 策定の背景			△	●		
3. めざす姿			△	●		
4. 展開する施策			施策案の分類 事例紹介	△	●	
5. プランの推進体制			—	△	●	
実行プラン(案)としての とりまとめ						全体イメージ 提示

● : 素案の提示

△ : 検討事項の提示

# 第4回 健康と文化の森地区

## 産学公連携協議会

令和7年8月28日 (木曜日)

藤沢市役所 本庁舎6階 6-1会議室

---

事務局：藤沢市 都市整備部 西北部総合整備事務所  
藤沢市 市長室 共創推進課  
藤沢市 経済部 産業労働課  
株式会社フジタ (土地区画整理組合 業務代行者)

## 議事

---

1. 前回協議会の振り返り
  2. 産学公連携実行プランの全体イメージ
  3. 展開する施策について
  4. プランの推進体制について
-

## 議事

---

**1. 前回協議会の振り返り**

**2. 産学公連携実行プランの全体イメージ**

**3. 展開する施策について**

**4. プランの推進体制について**

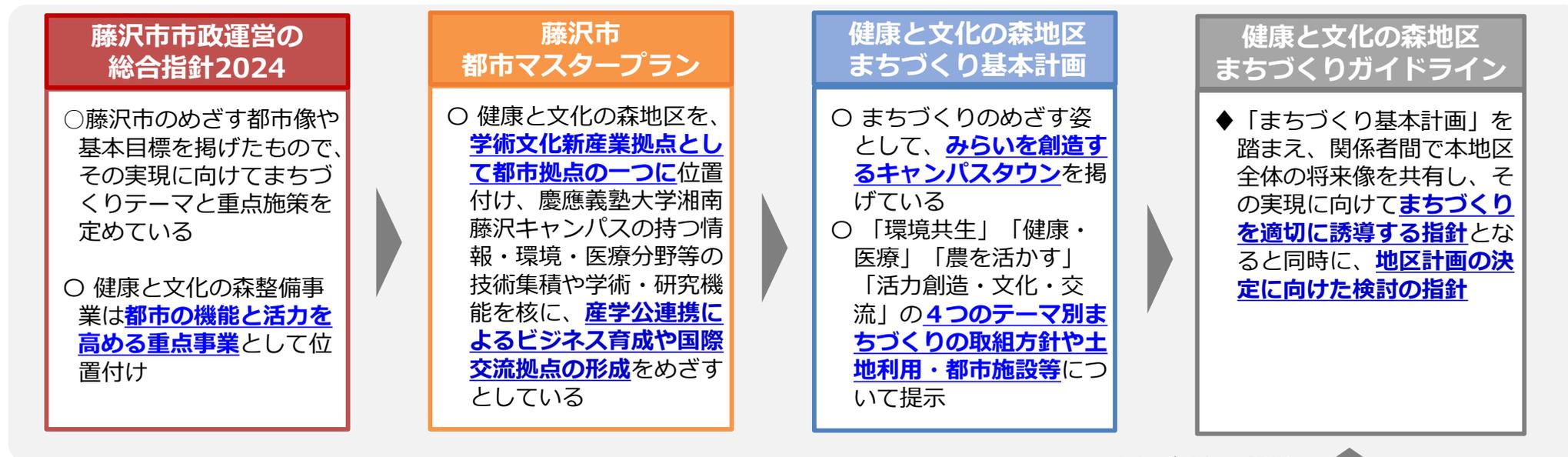
---

# 前回協議会の振り返り

## ■ 産学公連携実行プランの構成イメージの確認

### 1. プランの位置づけ

- 藤沢市の既存計画やまちづくりガイドラインとの関係性および、本プランの役割を確認。



まちづくりの誘導に  
かかる部分を反映



### 健康と文化の森地区 産学公連携実行プラン

都市拠点の一つに位置づけている健康と文化の森地区において、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの持つ情報・環境・医療分野等の技術集積や学術研究機能を核にまちづくりを進めるため、大学の学生や教職員、研究者、産業、市民、行政などまちづくりを担う**さまざま**な主体が連携し**地区の強みを活かす活動や取組についてとりまとめる。**

「都市マスタープラン」や「まちづくり基本計画」に具体的な取組方針が示されていないため、産学公連携実行プランとしてとりまとめる。

# 前回協議会の振り返り

## 2. 策定の背景

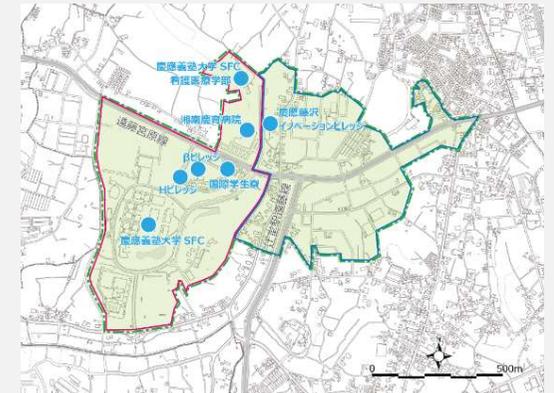
### ■ 産学公連携に関するこれまでの動き

- 本地区で展開されてきた産学公連携の動きを踏まえ、社会動向の変化に適応した新たな産学公連携を考える必要がある。

健康と文化の森基本  
構想(案)段階想定  
(1987)~

慶應義塾大学湘南藤  
沢キャンパス(以下慶  
應義塾大学SFC)開設  
(1990)~

市街化区域へ  
の編入(2016  
年、2024年)  
土地区画整理  
組合の設立認  
可(2024年)



### ■ 産学公連携のあり方について

#### 取り組み内容

- ✓ 企業へのアンケート・ヒアリング及び意見交換（大学との連携や立地に対する考え方）
- ✓ 慶應義塾大学SFCへのヒアリング及び意見交換
- ✓ 学生へのヒアリング及び意見交換（慶應義塾大学SFCの学生、他大学の学生）
- ✓ 近隣住民へのヒアリング及び意見交換

#### ヒアリング・意見交換より見えてきた事

- ✓ 研究所の進出は不透明。また、スタートアップやベンチャー企業が大学連携を期待しているが、見込みは不透明。
- ✓ 企業立地の判断においては、老朽化や手狭になったことに起因するケースが多い。また、人材確保の観点から住環境を重視する傾向。
- ✓ 慶應義塾大学SFCでは理系、文系に捉われない活動が多く、一般的な産学公連携にはなりづらい。
- ✓ まちとの関わりに関心がある学生が潜在しており、産業系の連携だけでなく、商業施設等における連携にも期待。
- ✓ 起業をめざす学生に対しての支援も必要。

# 前回協議会の振り返り

■ これまでに上がった事項・要素等による骨子案

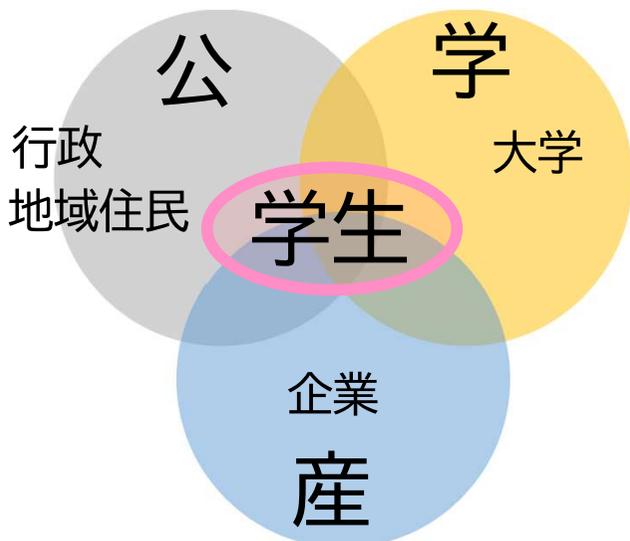
## 3. めざす姿 に関連する事項

- 策定の背景に記載の課題解決を図るため、また、基本計画で掲げるビジョン「活力創造・文化・交流のまちづくり」を実現するため、産学公連携実行プランのめざす姿を設定する。

★本地区の産学公連携に求められる事は...

企業と大学との連携によるビジネス育成も重要だが、地域や大学・学生による活動拠点の形成にも重きを置いた取組が求められる

第3回産学公連携協議会  
での産学公連携イメージ



産学公連携のめざす姿

1. 多世代、異文化、異業種交流等の活発化
2. 新しい「もの」「技術」「アイデア」「産業」の創出・発信
3. 人々の多様化するニーズやライフスタイルへの対応

学生の役割に関する意見

- 学生との雇用関係はなく、ボランティアな参加になり、リクルートの面では学生を守っていく必要があるため、学生に焦点を当てる場合、扱いを慎重にする必要がある。
- 学生の役割については、協議会で議論を行った方がよい。
- 学生をハブとして仕組みが運営できるかには課題があるが、学生をうまく活用することで、他ではできなかった、独自の成功が勝ち取れる可能性がゼロではないと考えている。
- 学生など特定のアクターをハブにするのではなく、今後打ち出す施策によって地域自体がハブとなるような表現とするとよい。

# 前回協議会の振り返り

## ■めざす姿に基づいた施策

- めざす姿の実現に向け、ディスカッションやアンケート・ヒアリング等でいただいたご意見を踏まえ、施策案について議論されました。

めざす姿

前回協議会やアンケート・ヒアリング等でいただいたご意見

施策(案)

①多世代、異文化、異業種交流等の活発化

1-1

多様な交流の場や機会の創出

1-2

地域活動の醸成

②新しい「もの」「技術」「アイデア」「産業」の創出・発信

2-1

イノベーション人材やベンチャー、新産業の創出・育成

※次頁以降で個別に整理

2-2

社会実験と社会実装の推進

③人々の多様化するニーズやライフスタイルへの対応

3-1

学びあう場の創出

3-2

健康・いきがいづくりの推進

# 前回協議会の振り返り

## ■ 展開する施策に基づく取組に対する意見交換

1

多様な交流の場や機会の創出

地域活動の醸成

- 場づくりの前に、プレイヤーや地域資源の把握が重要。
- 特定の人たちの閉鎖コミュニティにならないような配慮が必要。
- 企業風土・歴史・カルチャーを学ぶなどで、共通の価値観・コンセンサスが生まれ、よいコミュニティが醸成される。
- 多様な交流の観点から、中学生・高校生・留学生もターゲットになりうる。

2

イノベーション人材やベンチャー、  
新産業の創出・育成

社会実験と社会  
実装の推進

- 「実証に付き合わされて終わり」とならないよう、社会実験だけに留まらず、社会実装を目指すことが重要。
- 地域住民に積極的に関与してもらうためには適切なマネジメントが重要であるため、実行体制を見越して施策を検討すべき。
- スタートアップとのマッチングを行うときには、本地区にはどういう人たちがいて、どういうものが提供できるのか、またそれがスタートアップの考えているサービスや事業、商品に対して、マッチしているのかが問われる。地域の情報や課題を広くシェアすることで、学生の巻き込みがしやすくと考えられる。
- 実証実験で、他ではできないものがあれば、スタートアップの集積とマッチング、投資資金の獲得が期待できる。まずは、その空気づくりが必要。
- 法人設立のサポート等のハウツーは大学側で支援が難しいので、そういった面の整備は役立つ。資金確保につながらなくても、そういった情報にアクセスできる環境があると良いのでは。

3

学びあう場の創出

健康・いきがいくりの推進

- まずは慶應義塾大学SFCとの連携を核として、将来的には市内他大学との連携も目指したい。

## その他の意見

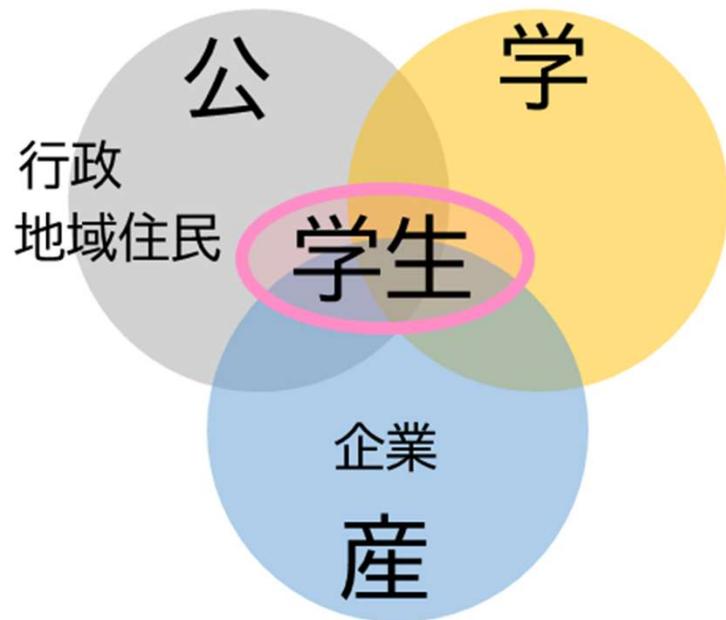
- 事業者側からのニーズも必要で、それらをシェアすることが出来る、課題解決の動きに結び付けやすい。
- ソフトな仕組みで課題を表出させれば、動く人が周りにいて、ということが起きてくるのでは。
- 静岡県浜松市の事例は予算がかかるので、まずは本地区や市町村単位で可能な範囲で実行していく想定である。
- 人口規模が5~6万人程度の長野県塩尻市がよいのではないか。
- 石川県金沢市が一番うまくいっているのではないか。
  - 条例を定めてベースを整理した点
  - 拠点となる施設ができ、活動が可能となった点
  - コーディネーターが常駐し相談・調整ができる点
  - 学生会議という組織をもち、横のつながりが形成されている点
  - 活動に対する助成制度がある点
- 企業を巻き込むと、事業性が重要になってしまう。学生を中心にしたまちづくりを考えると、あまりハードルは上げないほうがよいと考える。そのため、学生が将来やりたいと思っているテーマを持ち込みやすくなるためには、敷居を下げて行政や企業の役割を設計することが望ましい。

# 前回協議会の振り返り(前回からの変更点)

## ■ 産学公連携のイメージについて

### 第3回協議会での意見(抜粋)

- 学生など特定のアクターをハブにするのではなく、今後打ち出す施策によって地域自体がハブとなるような表現とするとよい。



第3回協議会で提示した  
産学公連携イメージ

### 3つのめざす姿

#### Sociability

-地域のつながり-

多世代、異文化、異業種  
交流等の活発化

#### Frontier

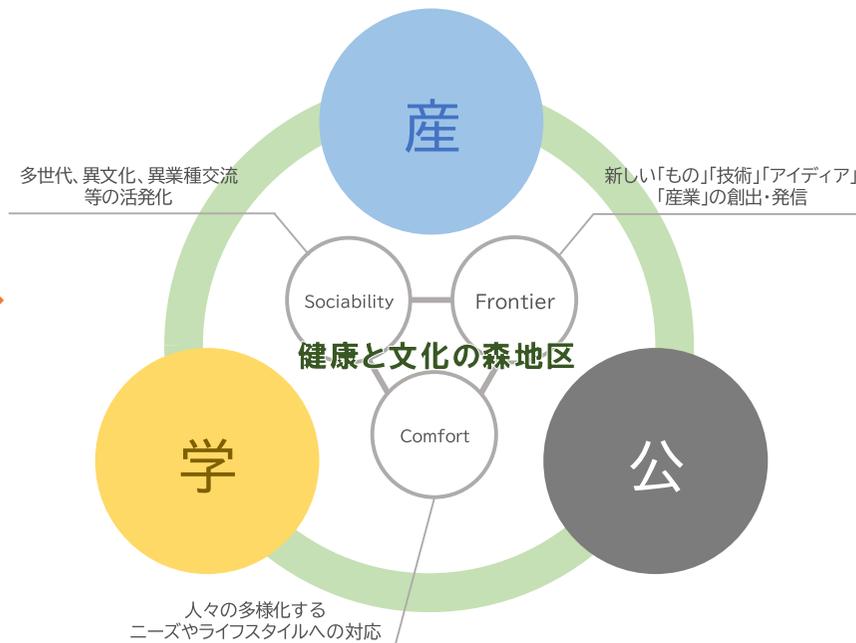
-技術・文化の先進性-

新しい「もの」「技術」「アイ  
ディア」「産業」の創出・発信

#### Comfort

-暮らしの快適性-

人々の多様化するニーズや  
ライフスタイルへの対応

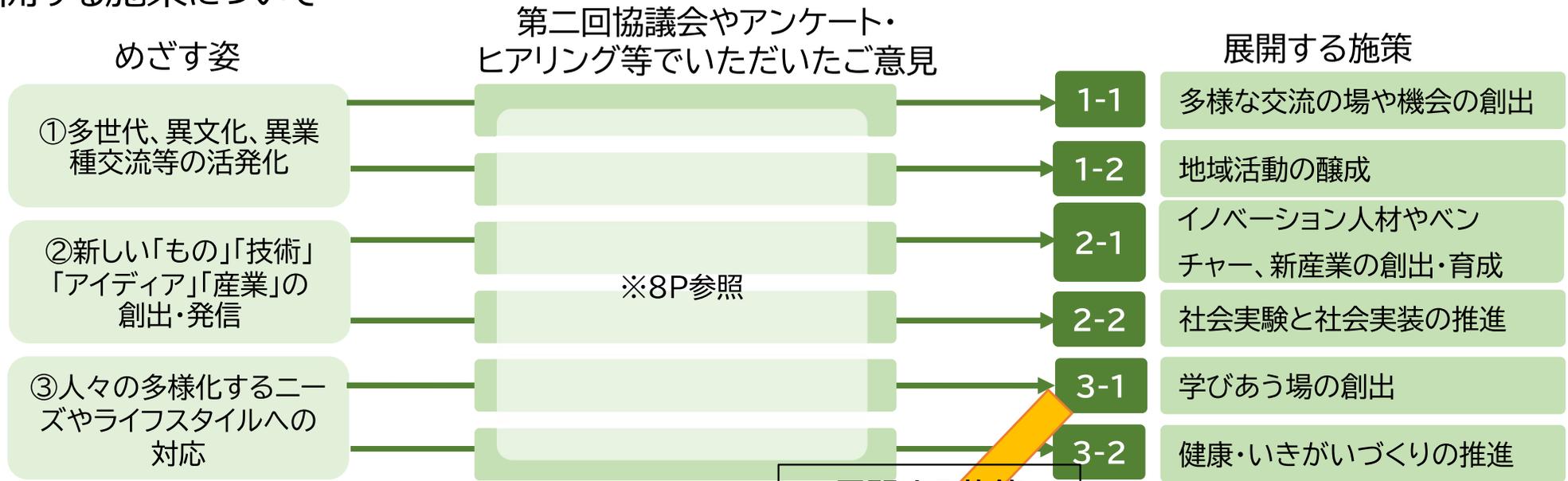


今回協議会で提示する  
産学公連携イメージ

# 前回協議会の振り返り(前回からの変更点)

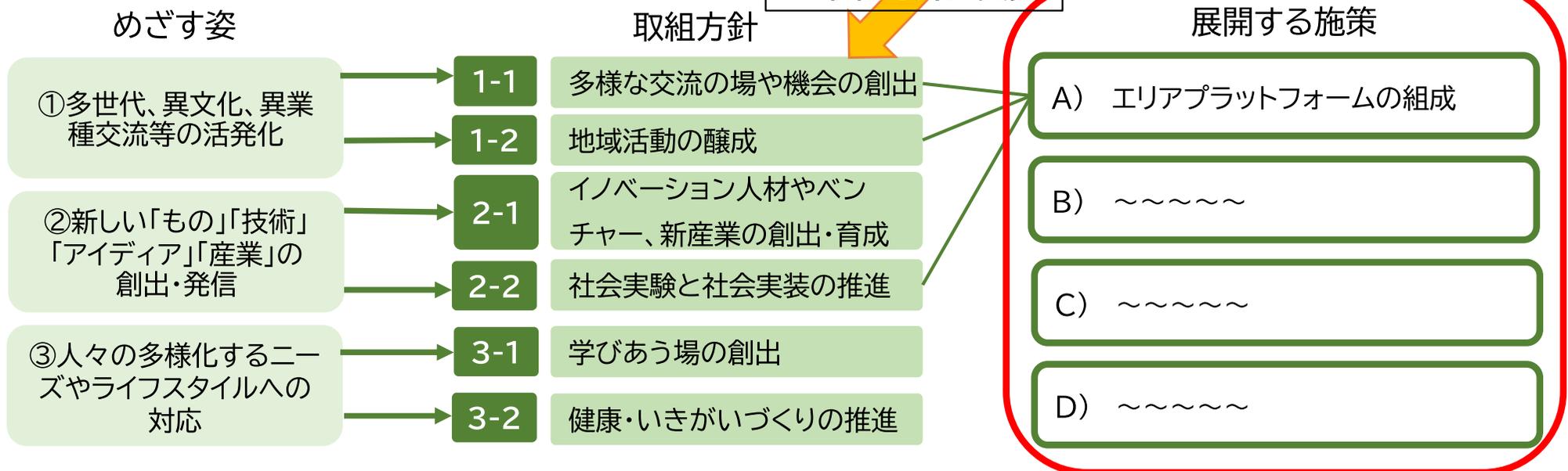
## ■ 展開する施策について

第3回協議会



展開する施策  
→取組方針に変更

今回



# 次 第

## 議事

---

1. 前回協議会の振り返り

2. 産学公連携実行プランの全体イメージ

※資料4参照

3. 展開する施策について

4. プランの推進体制について

---

# 次 第

## 議事

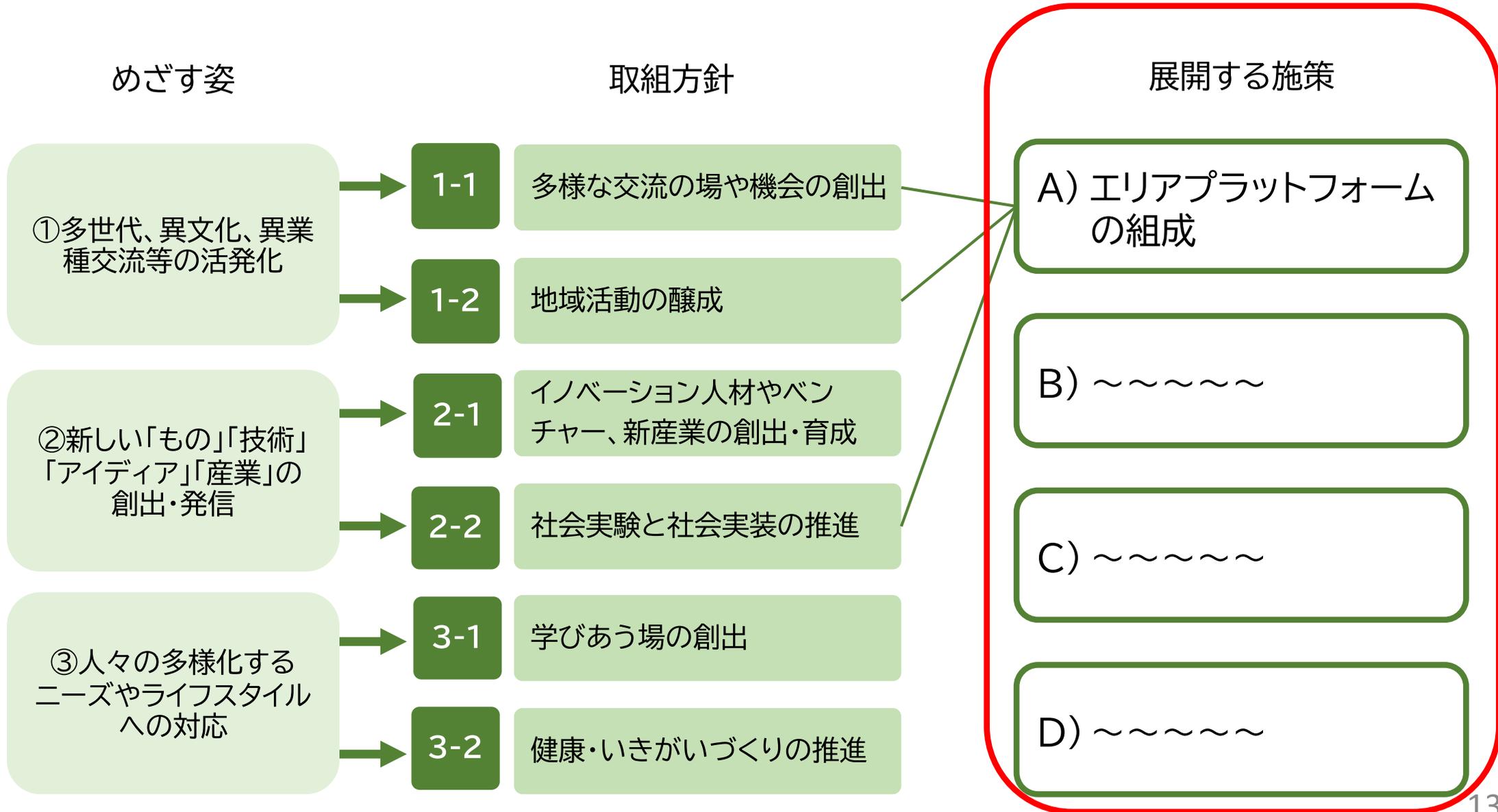
---

1. 前回協議会の振り返り
  2. 産学公連携実行プランの全体イメージ
  3. 展開する施策について
  4. プランの推進体制について
-

# 展開する施策について

## ■めざす姿に基づいた施策

- 展開する施策について改めて議論。



# 展開する施策について

1-1

## 多様な交流の場や機会の創出

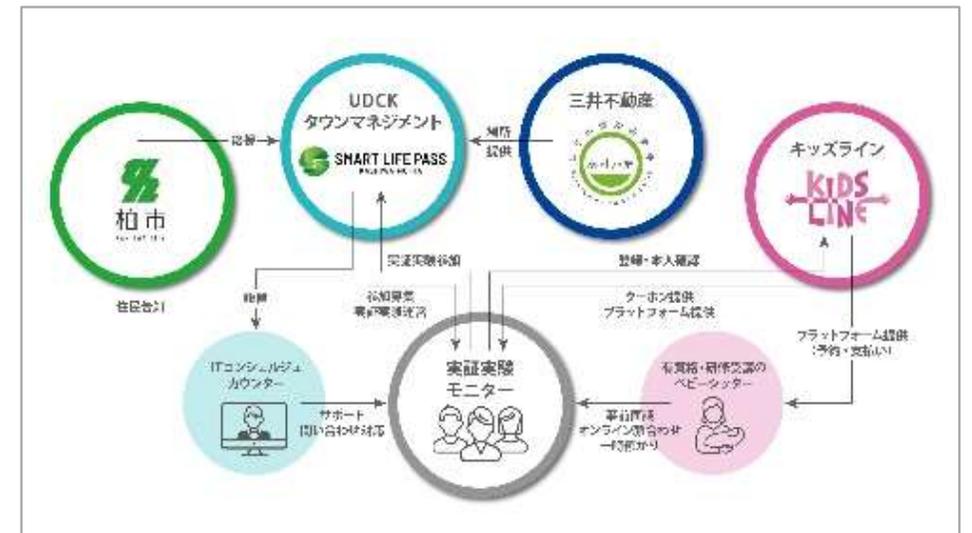
- 地域に携わる人々の交流や発信が持続的に行われ、良好なコミュニティを形成するための連携機能を備えたしくみを構築する。
- 慶應義塾大学SFCや地域住民などの既存のコミュニティと新規ステークホルダーがともにまちづくりに参加し、共創・地区展開の基点となる場や機会を創出する。

【取組例】 ※第3回協議会資料、慶應藤沢イノベーションビレッジ/学生/教員アンケートのご意見

- タウンポータルを活用した発信・交流促進
- 行政サービスなどによるデータ基盤連携
- スキルマッチング・シェアアプリによる共助の取組
- 体験型農園等との連携による交流機会の創出



Fujisawa SST タウン共通プラットフォーム



柏の葉スマートシティ  
スマートライフパス柏の葉における子どもの一時預かりサービス実証実験

# 展開する施策について

1-2

## 地域活動の醸成

- まちづくりに関わる主体が将来像を共有し、基盤整備後のまちの運営まで、地域の持続的な発展を実現する。
- 持続的なまちづくりを推進していくための地域活動やイベントの担い手の確保など、多様な人々が参画する取組を実現する体制を形成する。

【取組例】 ※第3回協議会資料、慶應藤沢イノベーションビレッジ/学生/教員アンケートのご意見

- 地域イベント・防災・環境活動等の取組
- コミュニティカフェ・拠点施設の設置・運営
- 慶應義塾大学SFCの学生が主体的に地域イベント(七夕祭、小出川彼岸花まつり)などの企画や運営に携わるジュニアリーダーの育成
- 団体間のネットワーク・交流(FSSTとの連携)



金沢市  
学生の地域コミュニティ連携促進事業



宇部市  
YCCU若者クリエイティブコンテナ



小出川彼岸花まつり



慶應義塾大学SFC七夕祭



# 展開する施策について

2-1

イノベーション人材やベンチャー、新産業の創出・育成

- 新たな交流により慶應義塾大学SFCが持つ多様な研究分野や地域課題解決のためのイノベーションやアイデアを生み出す。
- 既存の地域資源や大学が持つ自動運転や医療健康分野などの幅広いノウハウが産業やまちづくりと結びつくための場や機会を形成する。

【取組例】 ※第3回協議会資料、慶應藤沢イノベーションビレッジ/学生/教員アンケートのご意見

- 産学公の交流拠点、インキュベーション拠点づくり
- 実証実験フィールドの提供
- 地域特産物を使った新産業の創出(栽培実習、マーケティング分野での連携)
- 産学公連携による6次産業化
- マッチングプラットフォーム、起業支援



FUKUOKA GROWTH NEXT 福岡市・パートナー企業



京都知恵産業創造の森  
産学連携コーディネーター交流会



慶應藤沢イノベーションビレッジ  
※藤沢市ホームページより

# 展開する施策について

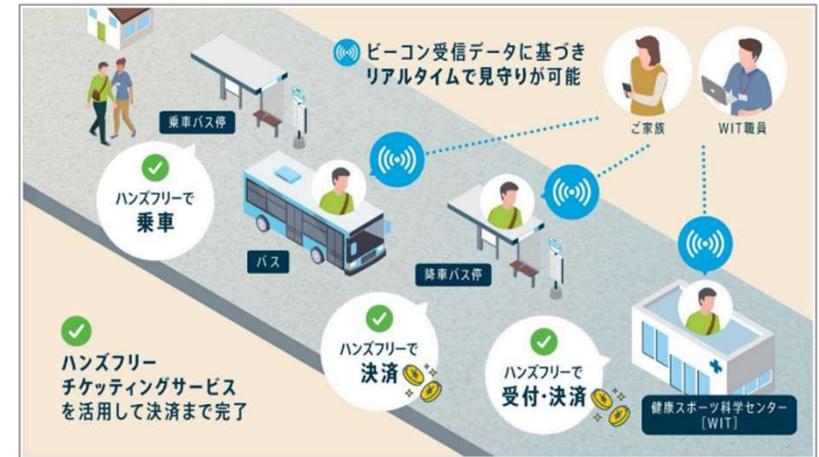
## 2-2

### 社会実験と社会実装の推進

- 産業、大学、行政、地域住民等の多様なステークホルダーの強みをもち寄って、社会実験と社会実装を推進し、課題解決型のまちづくりを実現する。
- 本地区の最大の特徴である幅広い学生層と産業、行政、地域住民が協力し、イノベーションや地域課題解決に取り組むオープンなプラットフォームを構築する。

【取組例】 ※第3回協議会資料、慶應藤沢イノベーションビレッジ/学生/教員アンケートのご意見

- 課題解決型ワークショップを活用した新たな住民サービスの提供
- 慶應義塾大学SFCを中心にデジタルツイン技術を活用した自動運転の高度化、実証実験の推進
- MaaSモデル(乗合デマンドタクシーなど)を活用した移動利便性向上
- 地域農業におけるセンサデータの可視化、生産管理システムの構築



実証実験のイメージ ※つくば市資料より



みんなのまちづくりスタジオ  
柏の葉キャンパスタウン/UDCKTM



官民連携オープンイノベーション企画  
「Innovation for New Normal from Shibuya」



電動モビリティのシェアリング実証  
※さいたま市HPより

# 展開する施策について

## 3-1

### 学びあう場の創出

- 環境共生、健康・医療、農を活かすまちづくりを実現するために、産業、大学、行政、地域住民が相互に学び合う場を生み出し、活力が創造されるまちを実現する。
- 既存の学びの場等を活用しながら、豊かな自然環境などの地域資源の理解や人々のWell-beingな暮らしの実現などのライフスタイルの形成に向けた学びあいの場を創出する。

【取組例】 ※第3回協議会資料、慶應藤沢イノベーションビレッジ/学生/教員アンケートのご意見

- 既存の学びの場(万学博覧会、ORF、藤沢市民講座等)を活用した地区展開(サテライト会場)
- 産と連携したSBC(Smart Built Campus)等の滞在型教育・研究施設の実施
- 産学公連携による滞在型市民農園の形成



街まるごとオープンキャンパス  
柏の葉キャンパスタウン/UDCK



市民講座 ※慶應義塾大学SFCホームページより



ORF ※慶應義塾大学SFCホームページより



藤沢市  
湘南産ワイン用ブドウ品種「メイヴ」の栽培における大学との連携



小金井市 わくわく都民農園小金井  
※小金井市観光まちおこし協会HPより

# 展開する施策について

## 3-2

### 健康・いきがづくりの推進

- 地域包括ケアや健康寿命の延伸により、元気に充実したときを過ごすことのできるまちを実現するために、多様化するニーズやライフスタイルに適応した恒常的なマネジメント体制を構築する。
- 本地区の特徴である健康・医療分野の知見等を活用し、産業、大学、地域住民が一体となって技術開発や製品開発、イベント活動をするための場を形成する。

【取組例】 ※第3回協議会資料、慶應藤沢イノベーションビレッジ/学生/教員アンケートのご意見

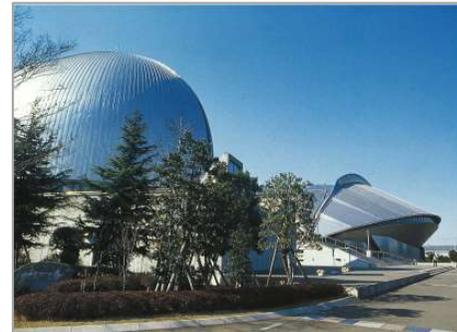
- 地域のスポーツ団体による運動イベントの開催
- 定点観測による住民体力調査
- 慶應義塾大学SFCによるヘルスケアイノベーション(「運動と脳」に関する研究、子どもから大人までを対象にしたeスポーツの活用、遠隔リハビリテーションなど)の実装
- 地産地消による健康的な食文化の普及活動、施設利用



スロージョギング×健康モニタリング  
さいたま市美園地区



大学と企業の協力による健康づくり拠点  
まちの健康研究所「あ・し・た」



秋葉台文化体育館  
※藤沢市ホームページより



ふじさわ健康マルシェ  
※チームFUJISAWA2020ホームページより



地産地消レストラン  
(農家レストランいぶき)

# 次 第

## 議事

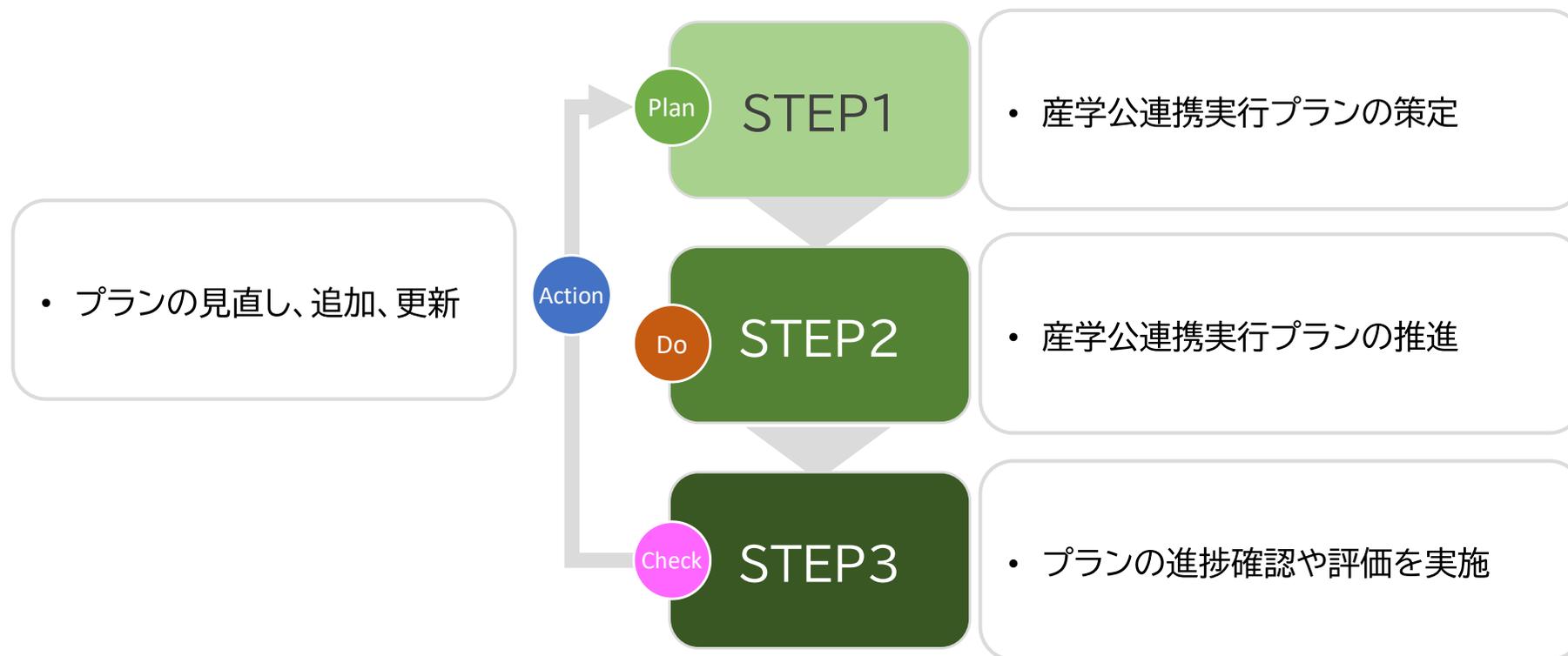
---

1. 前回協議会の振り返り
2. 産学公連携実行プランの全体イメージ
3. 展開する施策について
4. プランの推進体制について

# プランの推進体制について

## ■ プランの推進体制

- 5章ではプランの推進を図るためのPDCAサイクルを記載。



# 参考

## ■ 基本計画、ガイドライン、協議会意見から施策を展開するためのキーワードを5W1Hで整理

5W1H	キーワード
時期 (When)	準備段階   整備段階(土地区画整理事業)   成熟段階(施設整備)   いずみ野線延伸・新駅開業
場所 (Where)	健康と文化の森地区   慶應義塾大学SFC内   慶應藤沢イノベーションビレッジ   遠藤地区   新たな市街地 医療関連施設   水辺空間(小出川)   歴史を感じられる集落・史跡   βビレッジ
主体 (Who)	慶應義塾大学SFC   学生   生徒   教職員   研究者   行政   スタートアップ 地域住民   地域の事業者   進出企業   起業支援団体   慶應藤沢イノベーションビレッジ入居事業者
取組内容 (What)	<p>1. 多世代、異文化、異業種交流等の活発化</p> <p>イベントの実施(定期的)   コミュニティスペースの創出   学生の受入体制の構築   食や健康イベントの聖地化 講座やフォーラムの実施   地域情報・課題のシェア   学生の活動コンテンツ創出   拠点運営</p> <p>2. 新しい「もの」「技術」「アイデア」「産業」の創出・発信</p> <p>インターンシッププログラム   キャリアに繋がるプロジェクト   実証実験フィールドの提供   データ基盤連携   新規事業の創出   研究開発 起業支援(相談環境、プログラム提供、資金調達情報提供)   新製品の開発   ビジネス育成   慶應義塾大学SFCのショーケース化 情報アクセス環境の整備(税制、資金確保)   社会実験・社会実装   新産業創出に向けたマッチング   企業・大学の相互連携</p> <p>3. 人々の多様化するニーズやライフスタイルへの対応</p> <p>住民主体のマネジメント   地域課題解決型プロジェクト</p>
目的 (Why)	人々の多様化するニーズやライフスタイルへの対応 多世代・異文化・異業種交流等の活性化   新しい「もの」「技術」「アイデア」「産業」の創出・発信   まちの価値向上 慶應義塾大学SFCの情報・環境・医療分野技術や学術研究機能を核とした地区展開   担い手確保   持続可能な地域コミュニティの育成
どのように (How)	地域と学生の交流(地域イベント、万学博覧会)   起業支援のコーディネート・マッチング   環境保全活動   周辺農地と連携した学び・体験 条例の制定(助成・支援の制度化)   防災・防犯イベント(意識啓発)   モビリティマネジメント   健康づくり活動

## ■ 施策を展開するうえでの共通課題

5W1H	課題
時期 (When)	<ul style="list-style-type: none"> <li>市街地が整備されるまでの施策ごとに実現可能な時期や難易度は異なり、市街地整備の進捗・動向にあわせ必要な取組も変化することから、実行プランにおいてロードマップ等を活用した取組段階の明示・共有、当面の取組についての具体化</li> </ul>
場所 (Where)	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の地域資源の把握・活用(慶應義塾大学SFC、農地、小出川、谷戸、健康と文化の森など)</li> <li>市街地整備の進捗・動向にあわせ、産学公が日常的に交流できるコミュニティ拠点の形成</li> </ul>
主体 (Who)	<ul style="list-style-type: none"> <li>産学公連携における学生の参画方法</li> <li>地域住民や立地企業との協働</li> <li>地域活動や共創プラットフォーム・拠点の運営等の担い手</li> </ul>
取組内容 (What)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各施策における学生の関わり方、まちの受入体制</li> </ul>
目的 (Why)	<ul style="list-style-type: none"> <li>まちづくり・産学公連携のビジョンや意識共有               <ul style="list-style-type: none"> <li>&gt; 既存コミュニティ: 慶應義塾大学SFC、地域住民</li> <li>&gt; 新規プレイヤー: 新規住民、進出企業など</li> </ul> </li> </ul>
どのように (How)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学生が起点となった実施主体の自走運営に向けた支援</li> <li>活動資金の確保</li> </ul>



連携を推進するための 組織形成・担い手確保・資金調達・場づくりが必要

## 健康と文化の森地区産学公連携実行プラン(案)

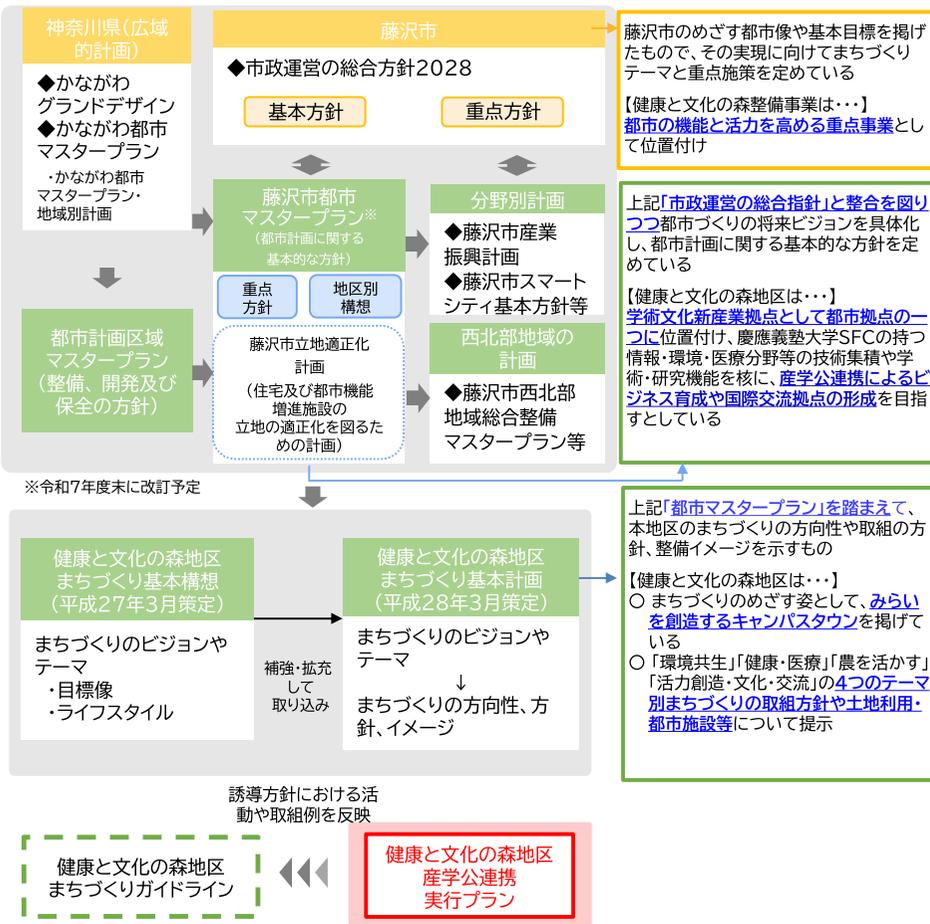
## 1.プランの位置づけ

本地区は、「藤沢市都市マスタープラン」にて学術文化新産業拠点として都市拠点の一つに位置付け、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス(以下「慶應義塾大学SFC(エスエフシー)」)を核としたまちづくりを進めており、慶應義塾大学と連携し、地区の強みを活かす活動や取組を新たなまちづくりの取組として進めていく。本プランは、健康と文化の森地区の強みを活かす活動や取組を新たなまちづくりの取組として進めていく。本プランは、健康と文化の森地区の強みを活かす活動や取組を新たなまちづくりの取組として進めていく。

※下に示す計画体系図などを基に、産学公連携実行プランの計画上の位置づけを記載する。

本プランは平成28年3月に策定したまちづくり基本計画を踏まえて、健康と文化の森地区で展開する産学公連携に関する取組等を具体化したプランとして策定する。

## 本地区のまちづくりに関する計画体系



## 2.策定の背景

本地区は、当初から大学の誘致と合わせて、大学と連携を進める開発の構想があり、産学公連携を進めるための取組を進めてきた。現在までの取組の変遷などを基に、このタイミングで産学公連携実行プランの策定に着手した背景を記載する。

過去～現在 多様な人々、主体の交流・連携によりまちの価値を向上する持続可能な地域コミュニティの育成が求められてきた

## ■健康と文化の森基本構想(案)段階想定(1987)～

大学誘致と併せ、慶應義塾大学SFC北側にまで広がる大規模な開発(バイタライズセンター建設)が行われることによって、活発な交流が想定されていた。

## ■慶應義塾大学SFC開設(1990)～

慶應義塾大学SFCの立地を契機に、市街化調整区域でできる範囲で段階的にまちづくりの歩みを進めてきた。  
一方で、慶應義塾大学SFC北側のバイタライズセンター周辺については、希少種保全の高まりにより、現状維持とする方針に変更になった。  
1990年(平成2年) 慶應義塾大学SFC開設  
2001年(平成13年) 慶應義塾大学SFC 看護医学部開  
2006年(平成18年) 慶應義塾大学SFC 国際学生寮開設  
2017年(平成29年) 湘南慶応病院開設  
2020年(令和2年) βヒレッジ(滞在型教育研究施設)完成  
2023年(令和5年) Hビレッジ(オンキャンパス型の国際学生寮)完成

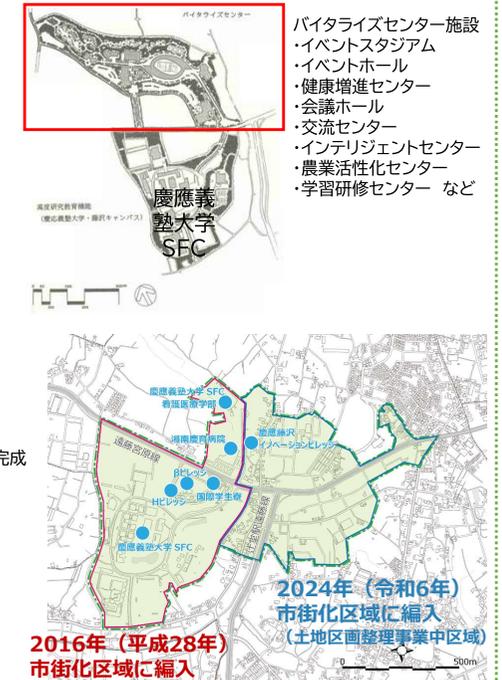
■市街化区域への編入(2016年、2024年)  
土地区画整理組合の設立認可(2024年)

地区西側の慶應義塾大学SFC周辺エリアが2016年に市街化区域に編入。  
地区東側は2024年に市街化区域への編入及び土地区画整理組合の設立認可がされた。

## +α(社会動向) まちを取り巻く環境の変化

- 最先端技術を活用したスマートシティの構築
- 健康・医療・福祉のまちづくりの推進
- 働き方・学び方の変化
- 地域イノベーションエコシステムの構築
- デジタルトランスフォーメーション(DX)の推進
- グローバル連携の強化
- など

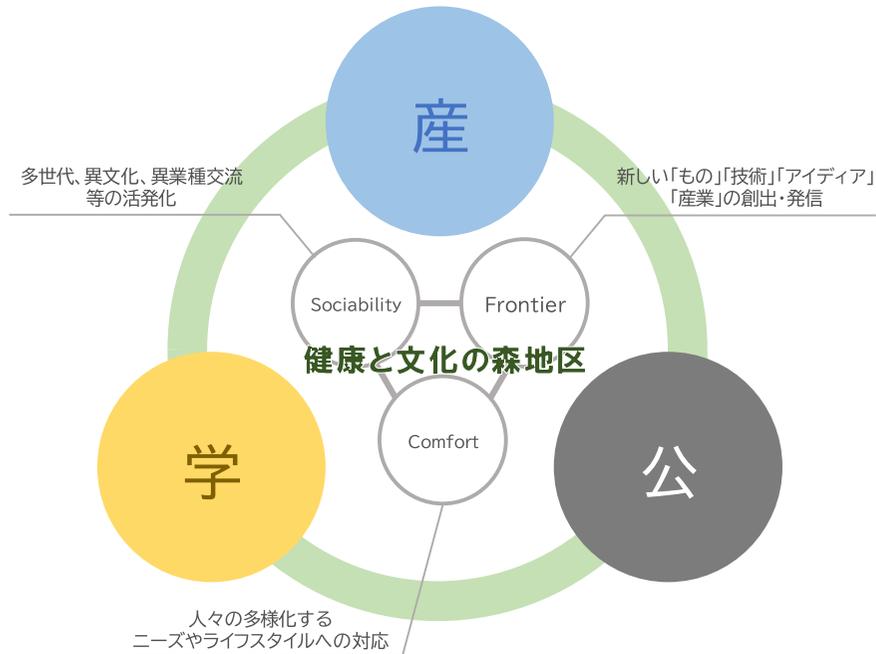
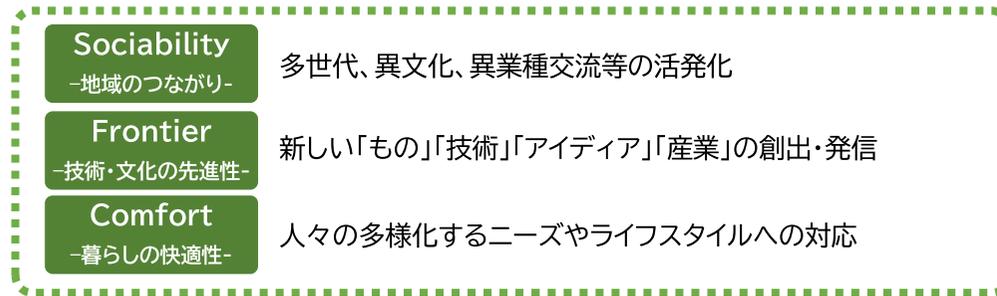
本地区における産学公連携を、改めて、考える。



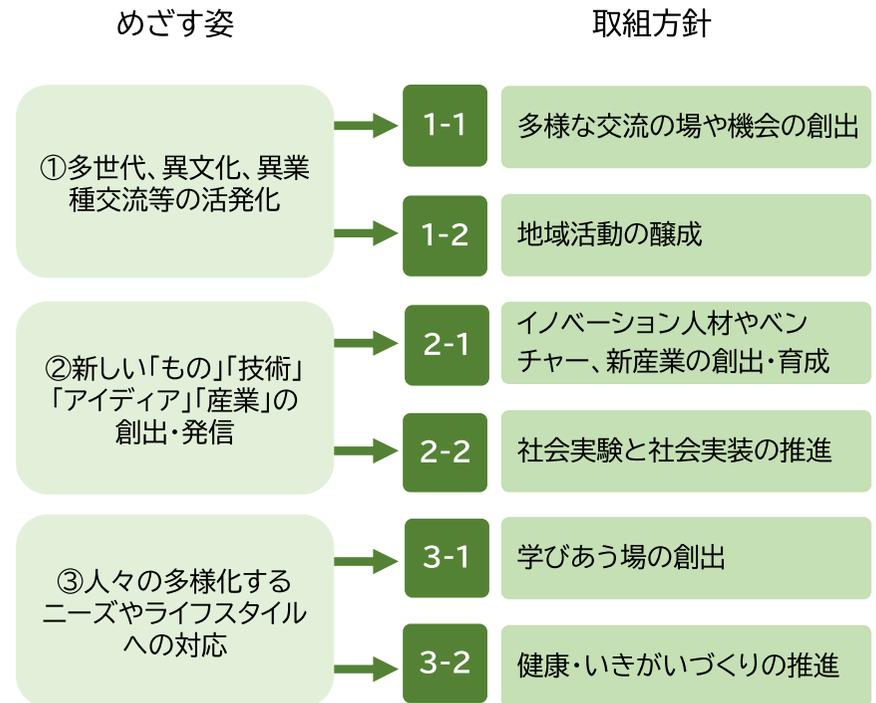
3.めざす姿

本地区的な基本計画では、まちづくりのビジョンにおいて「多様な人々の参加・交流により、活力が創造されるまち（活力創造・文化・交流）」を掲げ、その実現に向けて「健康と文化の森地区」における産学公連携のあり方を検討する。この中で、**※下に示す言葉や図などを基に、本地区における産学公連携のめざす姿を記載する。**

めざす姿・取組方針  
**※これまで施策として示した6つを取組方針に変更。**  
 本地区の3つのめざす姿の実現に向けて、6つの取組方針を示す。取組方針では、めざす姿を実現するための連携のあり方を示す。



本地区における産・学・公の連携



## 3.めざす姿

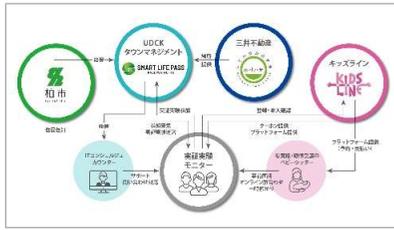
### 1-1 多様な交流の場や機会の創出

- 地域に携わる人々の交流や発信が持続的に行われ、良好なコミュニティを形成するための連携機能を備えたしくみを構築する。
- 慶應義塾大学SFCや地域住民などの既存のコミュニティと新規ステークホルダーがともにまちづくりに参加し、共創・地区展開の基点となる場や機会を創出する。

※新システムリニューアル済



Fujisawa SST  
タウン共通プラットフォーム



柏の葉スマートシティ  
スマートライフパス柏の葉における子どもの一  
時預かりサービス実証実験

### 2-1 イノベーション人材やベンチャー、新産業の創出・育成

- 新たな交流により慶應義塾大学SFCが持つ多様な研究分野や地域課題解決のためのイノベーションやアイデアを生み出す。
- 既存の地域資源や大学が持つ自動運転や医療健康分野などの幅広いノウハウが産業やまちづくりと結びつくための場や機会を形成する。



交流型クラウド・ファンディング  
日本全国(地域クラウド交流会)



FUKUOKA GROWTH NEXT  
福岡市・パートナー企業

### 1-2 地域活動の醸成

- まちづくりに関わる主体が将来像を共有し、基盤整備後のまちの運営まで、地域の持続的な発展を実現する。
- 持続的なまちづくりを推進していくための地域活動やイベントの担い手の確保など、多様な人々が参画する取組を実現する体制を形成する。



金沢市  
学生の地域コミュニティ連携促進事業



金沢市  
協働のまちづくりチャレンジ事業



みんなのまちづくりスタジオ  
柏の葉キャンパスタウン/UDCKTM



官民連携オープンイノベーション企画  
「Innovation for New Normal from Shibuya」

3.めざす姿

3-1 学びあう場の創出

- 環境共生、健康・医療、農を活かすまちづくりを実現するために、産業、大学、行政、地域住民が相互に学び合う場を生み出し、活力が創造されるまちを実現する。
- 既存の学びの場等を活用しながら、豊かな自然環境などの地域資源の理解や人々のWell-beingな暮らしの実現などのライフスタイルの形成に向けた学びあいの場を創出する。



街まるごとオープンキャンパス  
相の葉キャンパスタウン/UDCK



さいたま市  
みその都市デザインスタジオ  
みその都市デザイン協議会

3-2 健康・いきがいくりの推進

- 地域包括ケアや健康寿命の延伸により、元気に充実したときを過ごすことのできるまちを実現するために、多様化するニーズやライフスタイルに適応した恒常的なマネジメント体制を構築する。
- 本地区の特徴である健康・医療分野の知見等を活用し、産業、大学、地域住民が一体となって技術開発や製品開発、イベント活動をするための場を形成する。



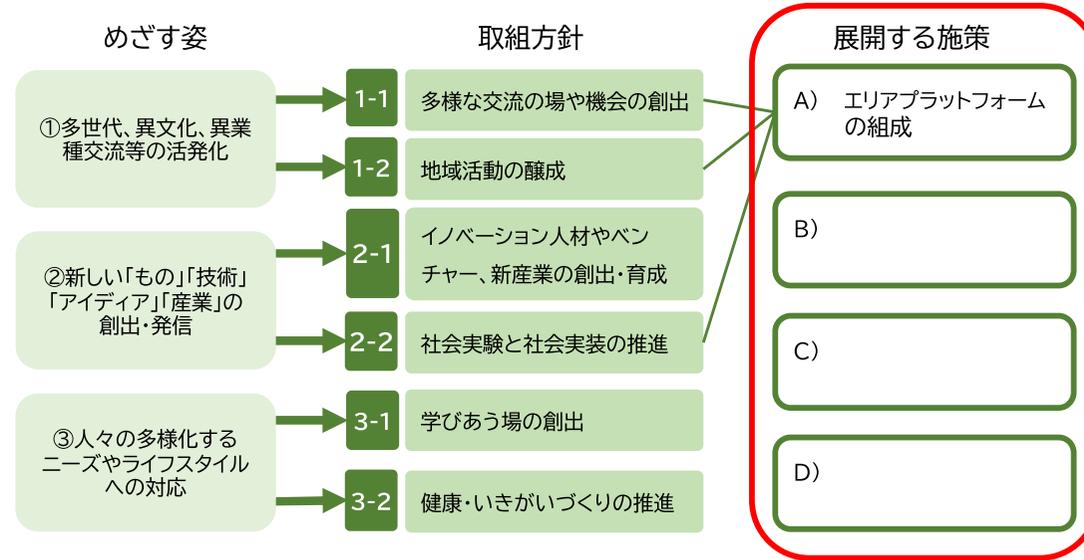
大学と企業の協力による健康づくり拠点  
まちの健康研究所「あ・し・た」



スロージョギング×健康モニタリング  
さいたま市美園地区

4. 展開する施策

めざす姿 ※めざす姿、取組方針を踏まえ、展開する施策を記載する。



取組方針と施策の 関連イメージ		取組方針					
		1-1	1-2	2-1	2-2	3-1	3-2
展開する 施策	A) エリアプラットフォームの組成	●	●		●		
	B)	●	●	●		●	●
	C)	●	●	●	●	●	●
	D)	●		●	●	●	●

各施策に対して、関連する取組方針を星取表で整理

4. 展開する施策

施策A	エリアプラットフォームの組成			施策の記載イメージ
	めざす姿:① — 取組方針:1-1・1-2			
場所	コミュニティ拠点、慶應義塾大学SFC関連施設、WEB など			
主体	エリアプラットフォーム、まちづくり協議体、産学公連携協議会 など			
取組内容	<p>1)エリアプラットフォーム・協議体の組成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 本地区における持続可能な発展に資する地域活動を展開していくための母体として、本地区のまちづくりを広く協議する場を創出する。</li> <li>▶ 協議体の構成としては、医療機関、慶應藤沢イノベーションビレッジ、立地企業などの「産」、慶應義塾大学SFC関連施設、研究機関などの「学」、地域住民、団体、藤沢市、周辺住民の代表者などによる「公」が連携する組織を形成する。</li> <li>▶ 地域や学生のアイデアを起源として、関わる人々が協力し合うことができる環境を整備する。</li> </ul> <p>2)タウンポータルを整備・運営</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 行政サービスなどのデータ基盤を連携させることで、住民サービスの利便性向上に資するタウンポータル(WEB上のプラットフォーム)を整備する。</li> <li>▶ タウンポータルは、協議体で管理運営し、住民(利用者)のニーズを捉えた柔軟な活用を推進する。</li> </ul> <p>3)地域イベント・防災・環境活動等の取組発信・生活の利便性向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>▶ 整備したタウンポータルでは、地域イベントとして、季節の祭事(小出川彼岸花祭り、慶應義塾大学SFC七夕祭など)、慶應義塾大学SFC関連イベント(万学博覧会など)、新たに整備される公園などを活用した地域防災イベント・環境美化活動の開催情報を発信する。</li> <li>▶ 地域の防災情報や交通・インフラ情報など、住民の暮らしを便利にするツールとしての機能も目指す。</li> </ul>			
実施期間	取組内容	短期 (区画整理後)	中期 (施設立地後)	長期 (施設利用による発展)
	関係者調整	[Progress bar from start to end of short-term phase]		
	WEBプラットフォームの構築	[Progress bar from start to end of long-term phase]		
	地域イベント等の取組の展開	[Progress bar from start to end of long-term phase]		

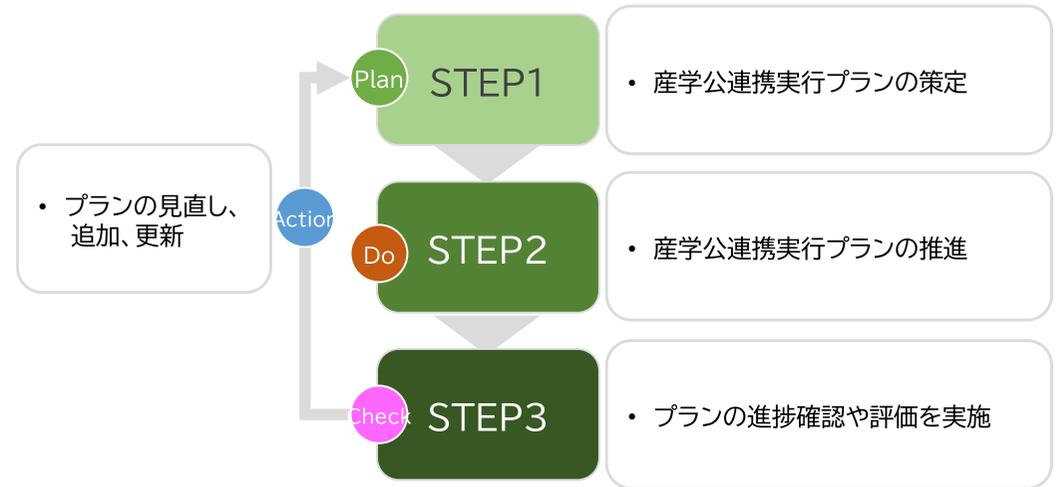


5. プランの推進体制

推進体制の考え方

※本計画を推進するための体制を記載する。(PDCAサイクル)

また、持続的な産学公の連携の推進に向けて、プランで示した取り組みをもとにした活動を展開し、産学公で構成する協議体などにより、各施策の進捗確認を行うとともに、連携方策の見直しや検証を図るPDCAサイクルを用いて進めていく。



産学公連携におけるPDCAサイクルの考え方

## 健康と文化の森地区産学公連携協議会設置要綱

### （名称）

第1条 この組織は、健康と文化の森地区産学公連携協議会（以下「連携協議会」という。）と称する。

### （目的及び設置）

第2条 都市拠点の一つに位置づけている「健康と文化の森地区」において、慶應義塾大学湘南藤沢キャンパスの持つ情報・環境・医療分野等の技術集積や学術研究機能を核にまちづくりを進めるため、大学の学生や教職員、研究者、産業界、市民、行政などまちづくりを担うさまざまな主体が連携し地区の強みを活かす活動や取組について、幅広い視点や立場から意見や提案をいただき、産学公連携実行プラン策定に向けた検討を行う事を目的として、連携協議会を設置する。

### （所掌事項）

第3条 連携協議会は、次に掲げる事項について検討を行う。

- (1) 産学公連携実行プランに関する事項
- (2) 産学公連携のあり方に関する事項
- (3) 産学公連携の活動拠点とまちづくりに関する事項
- (4) 産学公連携の実現に向けた取組に関する事項
- (5) 前各号に掲げるもののほか、第2条の目的を達成するために必要となる検討及び専門的な助言、指導等に関する事項

### （組織）

第4条 連携協議会は、構成員10人以内で組織する。

### （構成員）

第5条 構成員は、第4条の範囲内において、次の各号に掲げるものから市長が依頼するものとする。

- (1) 学識経験者

(2) 有識者

(3) 関係事業者

2 連携協議会には会長を置き、構成員から市長の指名により定める。

3 会長は、議事その他の会務を総理し、連携協議会を代表する。

4 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、市長の指名する構成員がその職務を代理する。

(構成員の任期)

第6条 構成員の任期は、第2条の目的を達成するまでの間とする。

(会議)

第7条 連携協議会は、会長が招集し、会長がその議長となる。

2 連携協議会は、会長及び半数以上の構成員の出席（オンラインでの出席を含む。）をもって、会議を開くことができる。

3 連携協議会は、法人等に関する情報を取扱うことから藤沢市情報公開条例（平成13年条例第3号）第30条第2号に該当するため原則非公開とする。ただし、会議録や会議資料については、法人等に関する情報を抹消した上で、公表を行うものとする。

(代理出席)

第8条 構成員が自ら出席することができないときは、第5条の学識経験者及び有識者を除き、代理の者を出席させることができる。この場合において、会長に代理の者の氏名等を報告することにより、その代理の者の出席をもって構成員の出席とみなす。

(意見等の聴取)

第9条 会長は、会議の運営上必要があると認めるときは、本市の職員及びその他の関係人を会議に出席させてその意見又は説明を聴くことができる。

(オブザーバー)

第10条 連携協議会にオブザーバーとして、藤沢市健康と文化の森地区土地区画整理組合の理事を置く。

（秘密保持）

第11条 会長、構成員、オブザーバー若しくは連携協議会に従事する職員又はこれらの職にあった者は、その職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。

（連携協議会の事務局及び事務）

第12条 連携協議会の事務局は、都市整備部西北部総合整備事務所の他、市長室共創推進課、経済部産業労働課及び株式会社フジタ（藤沢市健康と文化の森地区土地区画整理組合 業務代行者）が行う。

2 連携協議会の事務は、都市整備部西北部総合整備事務所が行う。

3 事務を補佐するため、都市整備部西北部総合整備事務所は、コンサルタント会社及びアドバイザーを配置することができる。

（雑則）

第13条 この要綱に定めるもののほか、運営に関し必要な事項は、連携協議会に諮り会長が定める。

附 則

1 この要綱は、2024年（令和6年）7月29日から施行する。

2 この要綱の施行の日以後最初に開かれる会議は、第7条第1項の規定にかかわらず、市長が連携協議会を招集する。

附 則

この要綱は、2025年（令和7年）4月1日から施行する。

健康と文化の森地区産学公連携協議会 名簿 ( 敬称略 )

■ 構成員

	氏 名	所 属 等
学識経験者 有識者	<small>しみず</small> 清水 たくみ	慶應義塾大学 総合政策学部 准教授
	<small>やなさわ</small> <small>だいすけ</small> 柳澤 大輔	株式会社カヤック 取締役会 代表取締役 CEO
	<small>まつだ</small> <small>けんじ</small> 松田 賢治	Fujisawa SST マネジメント株式会社 代表取締役社長
	<small>いしざか</small> <small>りゅうと</small> 石坂 颯 都	ミライドア株式会社 投資本部副本部長
関係事業者	<small>いさがい</small> <small>よしのり</small> 飯盛 義徳	慶應義塾大学 SFC 研究所所長 / 総合政策学部 教授
	<small>なかみね</small> <small>ひでゆき</small> 中峯 秀之	慶應義塾大学 湘南藤沢キャンパス 事務長
	<small>ひろかわ</small> <small>かつや</small> 廣川 克也	一般財団法人 SFC フォーラム 業務統括・事務局長

■ オブザーバー

藤沢市健康と文化の森地区土地区画整理組合 副理事長	<small>いいしま</small> <small>あきら</small> 飯島 昭
藤沢市健康と文化の森地区土地区画整理組合 理事	<small>こばやし</small> <small>まこと</small> 小林 誠

■ 事務局

藤沢市 都市整備部 西北部総合整備事務所
藤沢市 市長室 共創推進課
藤沢市 経済部 産業労働課
株式会社フジタ (藤沢市健康と文化の森地区土地区画整理組合 業務代行者)

■ 事務局補佐

(コンサル) 八千代エンジニアリング株式会社
(アドバイザー) <small>いしやま</small> 石山 さつき (慶應義塾大学非常勤講師)
(アドバイザー) <small>むらまつ</small> <small>こうき</small> 村松 功規 (コントラン株式会社 代表取締役社長)